

ちくりんくす  
NPO法人 いなだに竹Links

地域と人を繋げる竹林整備・竹資源活用

Q. 活動を始めたきっかけは何ですか？

きっかけは2012年に遡ります。当時の天竜舟下り（現・天竜川和船下り）が行われていた天竜川の渓谷「鷲流峡」は、かつては桜と紅葉の景勝地でしたが、いつのまにか竹で暗く覆われ、ゴミや産業廃棄物の不法投棄の場と化していました。これに心を痛めた船頭有志が竹林伐採を開始します。

しかし、広大な敷地と斜面での作業はきりが無く、孤軍奮闘ではなく地域を巻き込んで行っていくことを決意し、竜丘自治振興センターに相談すると、地域との連携を段取りしてくれ、企業・行政・地域がタッグを組んだ「天竜川鷲流峡復活プロジェクト」が結成されました。

プロジェクトは大いに盛り上がり、鷲流峡の竹林整備は大成功をおさめます。また、地元の竜丘小学校と繋がって竹を刈り、竹いかだを楽しんだり、オリジナルラベルデザインのメンマ商品を生産したりしました。さらに人の縁は地域外へも広がり、「IVUSA(NPO 法人国際ボランティア学生協会)」と連携して全国の大学生と竹林整備や勉強会を行うことで関係人口創出へと繋がりました。このような活動は全国へ口コミで広がり、講演会の依頼等が殺到し、また、県内からは「竹林の現場で整備講習会を開いてほしい」というニーズも多く寄せられました。

これらを踏まえ、整備の場を鷲流峡のみならず伊那谷エリアを見据えて活動していくことにコミットして、2021年10月「NPO 法人いなだに竹Links」を設立しました。



Q. どんな活動をしていますか？

放置されて荒れた竹林が活動場所となります。私たちのポリシーは「美しい整備」です。



竹を刈りっぱなしにするのではなく、我々が「棚」と呼ぶ方法で竹を整頓して配置します。具体的には、竹を横に倒した際に「受け」になる竹や木を2本運び、その受けに揃えるように整然と刈った竹を並べていきます。枝は先の方まで丁寧に払います。そして、並べた竹の裏側に払った枝を押し込めてボサボサにならないようにします。この方法には多くのメリットがあり、非常に整った景観になること、斜面では雨水をバランスよく流すことで土留めになること、斜面の足場として歩けることにより竹や筍の搬出が容易になることが挙げられます。放置竹林が、見事な里山風景に生まれ変わります。

季節は基本的に酷暑を避けて行いたいところですが（熱中症、蜂や蛇の害を避けるため）、要望があれば真夏でも行ったこともありました。竹林整備は、基本的には秋～冬の作業となります。

私たちの活動のもう一つの主軸となるメンマ商品作りについては、収穫時期は4月下旬から5月いっぱいとなります。2m前後に伸びた孟宗竹の筍を収穫、皮剥ぎ、硬い節の部分を取り除く、可食部のカット、あく抜き、湯がき、塩漬け、これだけの工程を収穫したその日に行います。収穫時期には連日の作業となります。塩漬けた原材料は飯田市内の食品メーカーへ運び、保存と調味をOEMで委託しています。



Q. どんなメンバーで活動していますか？

■正会員 天竜川鷲流峡復活プロジェクトからのご縁で続いているメンバー  
メンマ商品の製造がきっかけで弊社の活動にご賛同いただいた方々  
関係人口の中で飯田と繋がっていた方 など

■竹林がある地域住民の方々が問題意識を持ち、地域で整備団体を組み協働で整備作業にあたっています。

■もう一つ大きな軸に、学生ボランティア団体「IVUSA」(前述)が30～50人規模で年4回ほど飯田を訪れ、地域の方々や私たちとの協働作業や対話を通じて、飯田に愛着を抱き、能動的に活動する関係人口を構築しています。



## Q. どんな社会課題・地域課題を解決しようと活動していますか？

竹林は、放置していると様々な問題を引き起こします。

- ① 暗い藪の中で不法投棄などの温床となる
- ② 道路際の藪は暗くなり、冬の凍結の原因。また、積雪の際、しなだれて道路インフラの妨げにもなる
- ③ 地下茎が年に5mほども広がり、隣接する家屋や田畑に竹が侵入し、管理しづらくなる
- ④ 他の樹木よりも早く上に伸びるために日陰となり、樹木が枯れ、生物多様性が失われる
- ⑤ 多様性を失った里山で、餌が不足した獣や筍目当ての獣が下りてきて獣害につながる

これらを解決し、正常な里山や森林環境に戻していくことで水源涵養を守ることを目的としています。また、整備活動を前向きに楽しく行うことで、希薄になりがちな地域住民同士の絆を深めたり、関係人口創出につなげています。

## Q. 活動をふり返って感じることは？

竜丘小での「竹育授業」は飯田の教育事情にインパクトを与えており、越境して竜丘小の教育を受けさせたいという親御さんの声も聞かれました。また、竜丘小の卒業生が高校生になってから、「今の自分の人格形成には竹の体験が大きくかかわっている、将来は地域外に行くことも考えたが、今では地域のために役に立つ人になりたい」といった感想を語ってくれました。



また、地域との繋がりとして、飯田市林務課と協議し「多様な主体との協働による里山・竹林整備支援事業」を行っています。

この結果、3つの環境保全団体が生まれました。弊社の「楽しく活動」する姿勢を見ていただいた結果が地域の結びつきを生んだのかと感じています。



## Q. 今後の展望はありますか？

竹林整備以外のコンテンツにも注力していきたいと思っています。竹炭や竹チップは環境にやさしい土壌改良剤となります。また、微細に砕いた竹パウダーは畜産の飼料となります。世界情勢が不安定な中、肥料や飼料の価格高騰が無視できない状況下において、地域資源を活用して問題解決していくことが重要と考えます。

また、弊社のメンマ商品について生産量を増やしたり、新たな食べ方の提案にも力を入れていきたいです。令和6年10月に弊社が中心となって行った「純国産メンマサミット」は、全国からの参加者、スタッフ、出展者の総計500人規模で大盛況となりました。そこで提唱したのは、2mほどに伸びすぎた筍を単にメンマの原材料として捉えるのではなく「竹菜」と呼んで様々な料理の素材として活用していこうという内容でした。今までの常識では、竹林の保有者は春になると伸びすぎた筍は厄介者として蹴り倒していたのです。これを地域資源として捉え、里山経済の一環として回すことを啓蒙するために、原材料買い取り制度なども始めて行きたいと計画しています。



竜丘小学校や学生ボランティア団体IVUSA等と一緒に活動した子どもたち・若者が、将来的に弊社で働く、弊社と連携した起業をすることが選択肢になるよう、未利用資源でもある「竹」を使った産業づくりや雇用創出に取り組んでいきます。

代表者	曾根原 宗夫	設立	令和3年	問合せ先	070-4442-7077(ムトス飯田推進委員会事務局)
活動日	不定期	活動場所	竹林がある場所	活動エリア	飯田下伊那
会員数	21人(協力者:企業2社)	会員募集	なし	会費	5,000円/年
HP・SNS	<a href="https://chikulinks.org/">https://chikulinks.org/</a>	chikulinks		ページ「いなたに竹 Links」	